

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西蒲地区学校複合施設 公民館棟	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県蒲郡市西蒲町宮地 1, 2, 3, 4, 5-1, 9-1, 10-1 の一部, 10-2, 10-8 の一部, 15, 16-1, 17-2, 17-3, 17-4, 宮東 26-2, 27-2, 28-1, 28-2, 28-3, 29-1, 29-2, 30, 31, 32, 33, 34, 35-2, 35-3, 36-2, 三反田 1-1, 丸落 21-1, 36-3, 37-2, 宮新田 21-1, 22, 23-4, 24-12, 25-2, 25-3, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32 の一部, 33-1 の一部	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域・近隣商業地域・準防火地域・法22条の地域	平均居住人員	393 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年4月29日
敷地面積	19,879 m ²	作成者	古谷 誠章
建築面積	1,787 m ²	確認日	2024年5月15日
延床面積	3,932 m ²	確認者	鈴木 寿明



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	57%
③上記+②以外の	57%
④上記+	57%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.5

3 重点項目	①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
①地球温暖化への配慮	4.7	1.0
②資源の有効活用	3.1	1.0
③敷地内の緑化		<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">17.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
④地域材の活用		<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
西蒲地区学校複合施設 公民館棟

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			0.1	3.4	0.15					2.6
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能: T-2	3.0	3.0	0.40					2.8
2 界壁遮音性能			0.4	5.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				5.0	1.00					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
				1.0	0.20					
2 温熱環境										
2.1 室温制御			0.3	2.0	0.35					2.0
1 室温			0.5	3.0	0.50					
2 外皮性能			3.0	3.0	0.50					
3 ソーン別制御性			3.0	-	-					
2.2 湿度制御			3.0	3.0	0.50					
2.3 空調方式			3.0	1.0	0.20					
			3.0	1.0	0.30					
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			0.2	3.0	0.25					3.0
1 昼光率			0.6	3.0	0.60					
2 方位別開口			3.0	3.0	0.60					
3 昼光利用設備			3.0	3.0	0.40					
3.2 グレア対策										
1 昼光制御			5.0	-	-					
3.3 照度										
3.4 照明制御			3.0	3.0	0.40					
			3.0	-	-					
4 空気質環境										
4.1 発生源対策			0.2	3.4	0.25					3.4
1 化学汚染物質			0.5	3.0	0.50					
			3.0	3.0	1.00					
4.2 換気										
1 換気量			0.3	3.0	0.30					
2 自然換気性能			3.0	3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.33					
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			0.2	5.0	0.20					
2 喫煙の制御		ビル全体の禁煙が確認されている。	3.0	-	-					
			3.0	5.0	1.00					
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	2.4	0.40					2.4
1 広さ・収納性			0.4	3.0	0.40					
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-					
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)			0.3	1.0	0.30					
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-					
3 内装計画			3.0	1.0	1.00					
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			0.3	3.0	0.30					
2 維持管理用機能の確保			3.0	3.0	0.50					
			3.0	3.0	0.50					
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.3	3.2	0.31					3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数 I = 1.25	0.4	3.8	0.48					
2 免震・制震・制振性能			3.0	4.0	0.80					
			3.0	3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	2.7	0.33					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08					
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.15					
				3.0	0.23					
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備			0.1	2.6	0.19					
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20					
3 電気設備	②		3.0	2.0	0.20					
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20					
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20					
			3.0	2.0	0.20					

3 対応性・更新性					0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり											
2 空間の形状・自由さ				0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	3.0	4.0	1.00	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②			3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③			1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											3.5
LR1 エネルギー							0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI = 0.47	3.0	5.0	0.43	-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング						3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価								-	-	-	
4.1 モニタリング								-	-	-	
4.2 運用管理体制								-	-	-	
LR2 資源・マテリアル							0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護					0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.1 節水				節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				雑排水等を利用している。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自	断熱材	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGSを使用している。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤						-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境							0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率57%。		4.7	0.33	-	-	-	4.7
2 地域環境への配慮					0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自			2.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制						-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。		5.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

西蒲地区学校複合施設 公民館棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:17.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 西蒲地区学校複合施設 公民館棟

計画上の配慮事項	
総合	ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	ビル全体の禁煙が確認されている。
Q2 サービス性能	重要度係数 $I = 1.25$ $0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$
Q3 室外環境(敷地内)	植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	BEI = 0.47
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 雑排水等を利用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率57%。
その他	特になし。